

年頭所感

膜学会の発展を期待して



日本膜学会会長
東京工業大学 山口猛央

はじめに

日本膜学会の皆様、あけましておめでとうございます。本年もどうぞ、よろしくお願い申し上げます。

1978年に設立された日本膜学会は世界初の膜学会であり、世界最大の膜の国際会議である第一回ICOMを1987年に東京で開催した学会です。1996年のICOM Yokohamaの成功、2020年からの一般社団法人日本膜学会への移行、2023年のICOM Makuhariの成功と、重要な節目を過ごし、これからのさらなる発展が期待されます。

膜学の重要性

世界的な水不足解決や二酸化炭素回収、省エネプロセスのための分離膜、地球規模でのエネルギー問題解決のための電解・燃料電池技術を支える電解質膜、後期高齢化社会のための医療技術に資する透析膜や機能膜、生体膜研究など、膜は必要不可欠な重要技術になっています。

世界膜学会と産学連携

World Association of Membrane Societies (WA-MS) (<https://www.wa-ms.org>) が2017年8月に発足しましたが、膜に関する教育プログラムを充実させることから始まり、現在では、世界的な膜に関する産学連携をどの様に展開すべきかの議論が深まっています。私も産学連携ワーキンググループで活動しています。アカデミアにおける新しい膜やプロセスの開発が早期に産業界に伝わるよう、産業界のニーズがアカデミアにしっかりと伝わるよう、新たな工夫を模索しています。膜産業が最も発展し世界へ貢献しているのは我が国であり、我が国の膜産業界からの意見をWA-MSへ伝え、世界の膜に関わる産学連携を日本がリードすべきと考えています。是非、産業界からのご意見をお聞かせください。また、日本膜学会の産業部門委員会の活動を支援し、国際的な展開に結びつけられると

良いと考えています。

AMS開催計画

2028年は日本膜学会設立50周年ですが、同年に日本膜学会が所属するアジア・オセアニア地区のAseanian Membrane Societyの国際会議を主催することとなりました。野村副会長を中心に進めています。計画や準備はこれからですが、学会員皆で協力し、成功させましょう。

日本膜学会の発展

今でも海外に行くと、ICOM2023は良かったと声をかけてもらえます。ICOM2023と一緒に成功に導いてくださった皆様のお陰であり、世界中から尊敬を受けている日本膜学会の歴史のお陰です。心より感謝しています。また、ICOM2023への参加以来、膜学会の年会や膜シンポジウムに参加くださる若手研究者も増えてきました。膜の応用分野は広がっており、普段は別の学会に参加している研究者が膜を通して知り合い、新たな知識や技術を身につけ新しい研究に繋がる機会も増えていると思います。是非、継続いただき、そのために必要な新しいセッションや特集企画、招待講演なども企画していきたいと思います。どんどん提案してください。膜に関する幅広い展開、深い議論を継続し、若手研究者が参加したいと思える学会となるよう努力していく所存です。

おわりに

学会は、他の研究者と知り合い、新たな知識や技術、考え方を取り入れる場です。また、容易に海外と連携できる場でもあります。世界にネットワークがある日本膜学会として、膜学の展開を目指し、さらなる発展の年になるよう、皆様からのより一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。